

働き方改革と 守・破・離の精神④

守・破・離とは、もとは千利休の歌「規矩作法 守り尽くして破るとも離るとても本を忘るな」から来ているもので、修行の各行程における心構えや行動を説いた熟語。

このシリーズも今回が最終回。これまでお話ししてきた「守・破・離」をテーマに行われた、弊社のイメージキャラクターである女性空手家・中村綾乃さんとの対談をご紹介します。この対談は、私にとって HIT.s 法のコンセプトと武道の心構えが意外なところで一致していることに新鮮な驚きを覚えた貴重な体験となりました。



株式会社 システム科学
代表取締役社長 石橋 博史
東京都生まれ。1962年から24年間、自動車機器メーカーに勤務。1986年、株式会社システム科学を設立、代表取締役に就任。業務革新の実践および支援ツール「HIT.s法」の開発・導入・コンサルティングを推進する。2010年2月に、P・F・ドロッカーに認められた「業務プロセス可視化法およびチャート作成システム」で特許を取得。2011年3月、一般社団法人可視経営協会を設立、代表理事を務める。主な著書に『最少人数で最強組織をつくる』（ダイヤモンド社刊）など多数。

「守」は道場訓を守り修行すること。何をすることも基本が大事。
(中村)

石橋：早速ですが、中村さんは空手の「形」をやっているんですか。

中村：はい、空手には相手と戦う「組手」と一人で技を演武する「形」とあるんですが、私は「形」をやっています。「形」は、決められた演武線の上で、決められた技を、いかに強く早く、いかに正確に表現できるかを極める武道なんです。空手の基本的な技や姿勢を身に付けることができます。

石橋：空手をやる上での基本中の基本ということですね。



空手道空優会 中村綾乃
新潟県出身。小学2年生から師である父親の下で空手を始める。厳しい修行を積み、2010年、空手道空優会の指導員となる。小柄な体から繰り出す「形」の演武はダイナミックで力強いと、空手界でも高い評価を受けている。2015年から内閣総理大臣杯全国空手道選手権大会で5連覇を達成。日本空手界のホープとして大きな期待を寄せられている。

中村：はい。細かい話ですが、手を握って拳をつくる時も、小指から細かく二段階で指を折っていくんです。握りもギュウギュウにきつく握るのではなく、糸一本を握るように自然な形で握るんです。

石橋：糸一本ですか。そういう表現、いいですね。実は、私どもは今話題になっている働き方改革を支援する経営革新プログラムを開発しているんです。

することが、「守・破・離」の「守」じゃないかと思うんです。学習することは一種の修行であって、業務プロセス改善の基本だと考えているんです。

中村：「守」が基本ですね。それは武道と同じです。

石橋：もっと言えば、「守」は文字通り、会社を守り、社員を守ると。

中村：そう言われると、すごく納得できます(笑)。

いうのがあるんですが、この考え方も従来の「人に仕事がつく」という概念を打ち破った「仕事に人がつく」という新しい発想なんです。そして、集積したデータを分析し、改善・改良することも「破」の概念なんです。

中村：改善・改良のために現状を打破する。空手の世界でも、それ、本当に大事なことなんです。

石橋：そして、カウンセルや

「離」は自分が教える立場になって適切な指導法を開発すること。
(中村)

石橋：そこは、まさにHIT.s法の指導と一緒です。

中村：でも、どうしてもIT技術と言うと、人間が置いていかれるような気がするのですが…。人間と言うよりも人の心と言うか…。

石橋：ITもAIも人間のためにあるんです。ちなみに、千利休の歌には心があります。ITのような世界だからこそ、この「守・破・離」という考え方は大事なんじゃないかと思うんです。

中村：ITを使うのも結局は人間ですからね。

日本人の持つ心の文化を大切にしながら、 常に前進を心がける。 それが、働き方改革における「守・破・離」の精神。

中村：残業時間を減らしたり、仕事を自動化したり、ですね。

石橋：そうです。弊社にはそれを実現するためのHIT.s法というプログラムがあるんですが、これを運用・活用する時、私は「守・破・離」の精神を感じるんです。

中村：それ、千利休の歌から来ている言葉ですよ。私たち武道の世界でもよく使われます。「守」は自分で一生懸命修行をすることで、「破」は自分で改善や改良を加えること、「離」は師の元を離れても、自分独自の空手観を深め、新しい自分を開発していく、そんな意味ですよ。

石橋：その通りです。で、まず私はこのHIT.s法を学び習得

石橋：それと、今、日本の経営革新が遅れている原因の一つに、経営者が既成の概念にとらわれ過ぎているということがあるんです。

中村：これまでやって来たことに固執してしまうと。

石橋：でも、経営革新を行うなら、そうした旧態依然とした体質を打破することが大事なんです。

中村：それが「破」ですね。

「破」は既存の概念や慣習を打ち破ること。これが意識改革に繋がる。
(石橋)

石橋：そうなんです。それと、HIT.sで使用するSチャートと

セミナーによる指導でHIT.s法を完全に習得したら、今度は自分が指導する立場になります。講師の下を離れて独り立ちするという事なんです。これは、まさしく「離」の精神ですね。そして独り立ちした後も時代や状況に合わせて常に新しい記号や指導法を開発していくんです。

中村：そこは、すごく良く分かります。私が空手の指導者になって、一番感じたのは、どうやったら私の考えが生徒さんたちに伝わるかっていうことなんです。自分がわかっていても、相手に伝わらなかつたら意味がないんですよ。できていないのは、伝わっていないからなのかな、って。



石橋：改革にはドラスチックな面が必要ですが、でも、人の心を忘れてはいけません。

中村：私も日本の心を大切にしたいですね。心は「心・技・体」の「心」でもあるわけですから。

石橋：私も、心がブレることなく頑張ります。今日はありがとうございました。

中村：こちらこそ、ありがとうございました。

働き方改革に

クリーンヒット!

HIT.s

大好評の事例セミナー、ついに大阪開催決定！お申込みはお早めに！

人手不足を解決したい経営者の方に

見れば変わる「可視経営」法 事例セミナー

東京
10/24
(木)開催



東京	
日時	10月24日(木) 13:00~16:30
場所	システム科学研修室
受講料	8,000円(税別)
お申込み	一般社団法人可視経営協会のサイト、または右記のQRコードよりお申込みください。



大阪
11/6
(水)開催



大阪	
日時	11月6日(水) 13:00~16:30
場所	コンベンションルーム AP大阪梅田茶屋町
受講料	8,000円(税別)
お申込み	一般社団法人可視経営協会のサイト、または右記のQRコードよりお申込みください。



経営革新と人材育成の HIT.s

株式会社 システム科学

東京都文京区小日向4-5-16 ツインヒルズ茗荷谷9階
TEL: 03-6632-7811 <https://www.ss-hit.co.jp/>

